



サステナブルツアー2024 館林の里沼

武蔵野大学サステナビリティ学科

2348067稲嶺璃音 2348076小林柊羽 2348070小林勇登 2348022佐藤葉月 2348030高井翼 2348031高井凜

1. 目的

- 群馬県館林市の沼(茂林寺沼、城沼、多々良沼)は人の暮らしと密であることから「里沼」と呼ばれ、日本遺産に認定されている。
- 里沼の保全には人の力が必要だが、認知度が高いとは言えない。
- 近年の環境の変化などから湿原の維持が危惧されている。



通常湿原は、低層→中間→高層の過程を経てやがて草原となる。茂林寺沼低地湿原は人の手が加わることで低層湿原の状態が保たれる希少な湿原。

サステナブルツアーを通して、茂林寺沼及び低地湿原の魅力を体感してもらい、環境保全活動の協力者の増加に繋げる。

従来型のツアー

- 交通の発展などで、世代を問わず旅行が身近に。多くの人(参加者・受け入れ側)が携わり、雇用拡大、消費拡大に寄与した。(経済的にプラス)
- ゴミ問題、騒音問題、環境汚染、自然破壊など地域環境に負荷をかけるケースもあった。(環境に負荷)
- 地域住民との関わりはほとんどなかったり、地元を負荷をかけるケースもあった。(地域理解に欠ける)

私たちが目指すサステナブルツアー

- 小規模だが、自然との触れ合いや、地域の人との交流を通じ、本当の豊かさに気づける旅を提供する。(経済的に小規模だが持続性がある)
- 地域の魅力ある自然を活動を通して保全し、人と自然に育まれてきた文化を理解する。(環境を理解して守る)
- 地域の人と交流しながらその土地の本物を体験し、参加者の感動と地域の元気につなげる。(地域を尊重する)

2. 事前の学びや準備

11月18日・19日

・里沼(茂林寺沼、城沼、多々良沼)視察と学び

12月16日・17日

・ヨシストロー、ヨシの廃材を再利用したキクラゲの培地を植生

5月11日

飯能市エコツーリズム(名栗川リバーウォッチング)

→エコツーリズムを先進的に行う地域が飯能市だったため、プロジェクトを立ち上げるにあたって、一度自分たちが参加者の立場に立つという意味で参加した。

5月25日・26日

サステナブルツーリズムのデモンストレーション



3. サステナブルツアーの実施

実施日:2024年6月30日(日) 東武伊勢崎線茂林寺前駅 集合10時30分 解散 14時30分

ツアー参加者:5人(武蔵野大学生4人、社会人1人)、地域の方の参加12人(館林市職員4人、大泉高校8人)

Activity1

茂林寺沼及び低地湿原の散策

NaviTabiというアプリを使用して湿原の植物の観察を行った。



Activity2

カキツバタソーダ

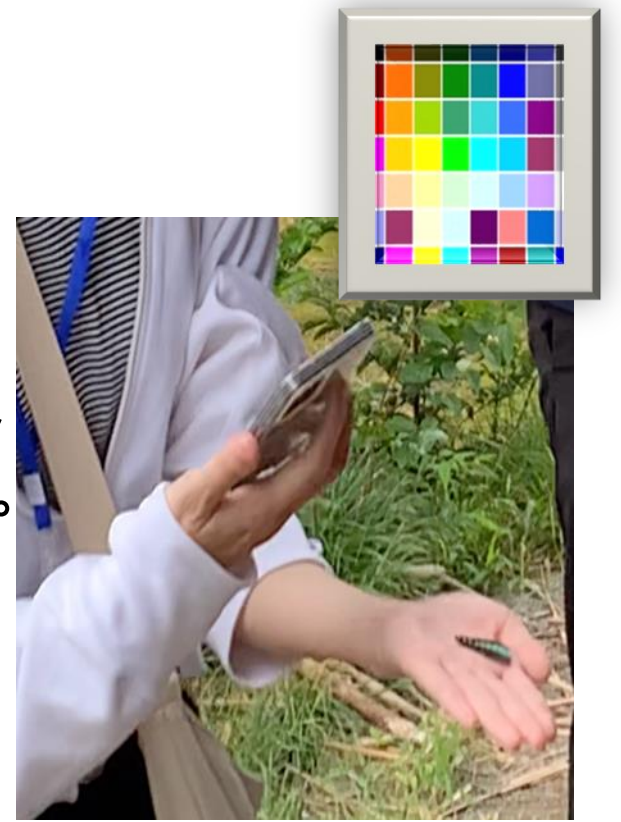
湿原の風景の象徴とされてきたカキツバタをモチーフにしたソーダを関東学園大学さんに提供してもらった。紫と青のグラデーションが綺麗な見た目。後味スツキリの夏らしい爽やかな味わい。



Activity3

色合わせ(ゲーム)

カラーパレットと同じ色の植物や木の実などを境内で探し、拾えるものは拾い、拾えないものは写真に収める。



Activity4

手打ちうどん体験

小麦粉、トマト、きゅうりなど地元の食材を使用した手打ちうどんづくり体験。キクラゲ天ぷらうどんのキクラゲは大泉高校さん提供。ヨシを活用した培地で育てられた。



Activity5

地域の人との交流

企画者、参加者、地元の高校生、館林市の職員の方などと、手打ちうどんを食べながら里沼について会話。自然の保全活動をしている人たちの生の声が聞けたと好評だった。



Activity6

紫VS黄色(ゲーム)

・湿原の風景の象徴とされてきたカキツバタが、キショウブなど外来植物に影響を受けている様子を椅子取りゲームで体感した。



4. 評価

<大切にしたいこと>	評価	<具体的な行動>	評価
楽しく自然とふれあえる	○	公共交通の利用をメインに、自動車は極力使用しない	○
参加者と地域人が交流できる	○	茂林寺沼を散策し里沼、希少な生物を観察する	○
地域の魅力を知ってもらう	○	里沼を壊してしまう外来生物の理解や駆除	○
そこでしかできない、そこでやることに価値があることをやる	○	水道水を無駄にしない	○
幅広い世代に楽しんでもらう	△	うどん汁などの適切な使用	○
参加者にレポートしてもらう	不明	地元の食材を選ぶ	○
		ゴミを出さない工夫	○
		化学製品を極力使用しない	○



約20人参加でゴミは3.8kg

5. 総括

- ・事前に定めた目標(大切にしたいこと、具体的な行動)は概ね達成できた。
- ・アンケート調査では、参加者の館林市に対する認知、里沼に対する認知が向上した。
- ・参加者に対し、地域の文化や歴史を伝える工夫を検討したい。

館林市様に向けての提案

- ・今回のツアーの成果をまとめ、持続可能なサステナブルツアーを提案する。
- ・地元との人との話し合いや、ツアーの担い手などに課題がある。

サステナブルツアー実施に当たり、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。(敬称略)

館林市、館林市教育委員会、館林市「日本遺産」推進協議会

群馬県立大泉高等学校(植物バイオ研究部、微生物バイオ研究部)、関東学園大学、飯能市